

月刊

利根日石新聞



2009年11月1日

創刊
平成24年8月号

第000034号

発行
利根日石株式会社
本社 販売管理課
TEL 0278-24-1635
FAX 0278-23-7980

暑いですね 皆さん、熱中症は大丈夫ですか？

先月、中学の『中体連』が行われました。長男(中3)・次男(中1)が野球で出場しましたが、1回戦で敗退。長男の小学2年生からの野球がけの日々が終りました。

途中、11月の時に辞めたくて、その時は毎晩、一週間ずっと泣いていました。そんな姿を見ているのが辛くて、よく話し合っ辞めようと相談にまで行ったあの頃が、とてもつかしいです。

毎日のように3人分の(三男も少年野球)ユニフォームや練習着を洗ってました。これがなかなか落ちなくて、専用の洗剤に付けおきして、もみ洗いしてます。これからは、一人分減ります。

よんだか、うれしいような... さみしいような...

これからは、高校受験が待っています。野球で頑張った日々を忘れずに、勉強でも『根性』で頑張ってもらいたいです♡

とみいさんちの(はなちゃん)

何かと雷雨の多い夏の午後

(はなちゃんの大キライな雷が突然、やって来たその日... (はなちゃんの家)にひびりきりしていたら大母きなお母さんも、お父さんも仕事で留守。雨も降ってきたのでお家に入りたかったけど、チーンが!

家の周りの柵に引っかかり全身びしょ濡れのお母さん帰ってきて、『えーん、こわかったよ〜』と泣いてお母さんに甘えた(はなちゃん)でした。

夏野菜ができてはじめて、もぎたてきゅうりを見ると、『ウフオ〜・ウフオ〜♡』と食べたいがります。ピーマンは、見てもシ・カ・ト

しています! きゅうり大好き

あけちゃんレシピ

小松菜と豚肉で、サラサラ血と血をつくり、夏バテ予防をしましょう!

・最後にかけるタレ → 生姜・砂糖少々・正油・お水少々で混ぜます。
豚肉は小さく切り、正油・砂糖少々・生姜・にんにくで下味をつけます。その後、少々の片栗粉をまぶして、沸騰したお湯で肉をさっとゆでます。ざるにお肉を取っておきます。冷蔵庫の中にある玉ねぎ、にんじん、にら・小松菜などを炒めてください。野菜は、ゆで野菜でもOKです。出来た野菜にお肉を入れて、初めに作ったタレを混ぜて出来あがりです。お酢を少々混ぜても、さっぱりといただけます。

油で炒めれば、ヘルシーで

良いですよ

夏はサッパリが◎

原子力を考える8月

政府の新しいエネルギー・環境戦略の策定が遅れています。当初、8月中には決定する予定でしたが、秋以降にずれ込む見通しです。「決められない政治」と揶揄されることありますが、この問題に関しては慎重に進めて欲しいと思います。毎週金曜日に行われる反原発のデモには毎回数万人の人々が集まっていますが一方で福井県の大飯原発は夏場の電力不足を理由に再稼働しました。

こうした中、今後のエネルギー政策について国民の意見を聴く政府の意見聴取会が全国11の会場に進められています。現在、全電力の約30%を占める原子力発電の割合を2030年にどの程度の割合にするべきか、①0%、②15%、③20~25%の選択肢から選び、それぞれ別の選択肢から抽選で選ばれた人の意見が述べられます。

7月30日現在、8つの会場で実施され、計1,253名の意見表明がありました。そのうち約7割にあたる874名が原発依存0%を希望しています。毎回数万人が参加するデモを見ても改めて反原発の大きな世論のうねりが見えます。一方で産業界からは再生可能エネルギーがまだまだ発展途上にあることを理由に、脱原発への非現実性が訴えられています。

私たちの未来に深く関わることからこそ、性急な意思決定や政局の手段とすることなく、慎重に丁寧に進めてほしいと思いますが、その前提の上で、やはり原発への依存度はなるべく早く下げてゆくべきだと考えます。確かに原発は莫大な量の電気を継続的に生み出すことが出来ますが、有事のリスクが余りに高く、地震大国の日本には適さないように思います。現在、1%しかない再生可能エネルギーが原発の代替となることは今の段階ではありませんが、計画を立て、的確な資本投資と技術開発が促されるれば、十分に代替エネルギーとなり得る可能性を秘めています。

ここでひとつ紹介したい町があります。岩手県葛巻町、人口約7,600人(2,900世帯)、酪農と林業が主産業の小さな町ですが、再生可能エネルギーにかけては全国でも有数の町です。風力や太陽光、バイオマスなどの発電設備に早くから取り組み、町全体で必要な電気の180%を賄う「電力輸出町」となっています。今年3月に鈴木町長のお話を聞く機会がありましたが、平成11年に「環境にやさしい町づくり宣言」をし、一貫して取り組んでこられた新エネルギー事業への熱い想いを力強く語っていただきました。

翻って、この群馬も「理想の電化に電源群馬」と上毛カルタに謳われるように、かつては「電力輸出県」でした。昭和27年の電力自給率は実に**370%**！それが昭和44年に100%となり、現在は**22%**にまで低迷しています。有事のことを考えれば、やはり分散型電力で、電気の地産地消が望ましいのではないのでしょうか。榛東村や太田市のメガソーラーをきっかけに「電源群馬」を復活させるべく微かながら太陽光発電の普及に頑張っています。

地震大国というだけでなく、原子力の恐ろしさを身をもって経験している日本だからこそ、進めるべきエネルギー政策があるように思います。それが67年前と、昨年と二度、原子力の脅威に晒された私たちが生かすべき教訓であり、犠牲になられた方々への慰めではないでしょうか。



1才半になる娘はよく笑い、バネが大好き。この子たちに何を残し、何を残すべきでないか……。